

# 冒頭陳述要旨

傷 害

被告人 小林 かつお

## 第1 被告人の身上経歴等

- 1 被告人は本籍地で出生し、地元の高校を卒業後、内装業に従事し、本件犯行時に至る。
- 2 婚姻歴はない。
- 3 前科はないが、少年時に傷害で補導された前歴がある。

## 第2 犯行に至る経緯及び犯行状況等

- 1 被告人、被害者及び茂木チコの三人は、高校の同級生であり、事件当時23歳であった。被害者と茂木チコは高校生のときから交際していた。被害者は本件犯行の約1年前に、被告人を殴り、鼻骨骨折の傷害を負わせた。それ以来二人の仲は陰悪であった。また、被害者は、そのころから茂木チコが被告人と交際しているのではないかと疑っていた。

- 2 被害者は、これまで被告人を呼び出して何度も話し合いをしようとしたが、被告人は仕事が忙しいなどと理由をつけて、話し合いに応じようとしなかった。

- 3 業を煮やした被害者は、仕事を終え自宅横の駐車場に帰って来る被告人と話し合いをするために、犯行当日被告人宅横の駐車場付近で被告人を待っていたところ、被告人がレクサスに乗って帰ってきた。

被害者は、レクサスから降りた被告人に近づき、「俺の女に手を出したな、楽しそうにドライブしていたのを見たぞ」と詰め寄ったところ、被告人は、「知らねえよ、お前の女に誰が手を出すか」と答えた。

そのため、被害者は頭に血が上って被告人の胸倉をつかみ、何度も被告人の顔面を殴った。被害者が息を切らして殴るのを止め、被告人の胸倉を離すと、被告人は「チコとは何もねえよ」などと小声でブツブツつぶやいた。被害者は、レクサスのドアをボコンと蹴り、「てめえまだ言うか、また鼻を折ってやろうか」と言い、再び被告人に殴りかかった。

- 4 被告人は、以前酒の席で被害者より理不尽な暴行を受けて鼻の骨を折られたことを忘れておらず、また、被害者の交際相手である茂木チコとは何も無いのに今回も理不尽に殴られ、さらに、購入したばかりの愛車レクサスを蹴られて傷つけられたことで逆上し、被害者に反撃し積極的に傷つけてやろうと思い立ち、作業用カーゴパンツの右横ポケットから作業用ナイフを取り出し、本件公訴事実記載の犯行に及んだ。

## 第3 犯行後の状況等

被告人は、被害者に対し、治療費等の弁償を全くしていない。

## 第4 その他情状